

# 客観的データに基づいた分かりやすい調理動作映像教材の開発

最終更新日：2016年4月28日

【プロジェクト代表者】  
家政教育講座  
教授  
阿曾沼 樹

## キーワード

・包丁操作、動作の定量化、ICT教材の開発

## プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

- ◆目的  
本プロジェクトの最終目標は、包丁を用いた調理動作に関する知識や技能を効率的に身に付けられるようなICT教材を開発することである。今回は、本包丁を用いた調理動作をどのように映像に収め、提示すれば分かりやすい映像となるのかを、人間工学的な視点から客観的に明らかにし、この結果に基づいたICT教材を試作し、評価を行った。
- ◆方法  
・調理者に対する撮影する角度を変化させた場合、映像内の包丁動作の分かり易さがどのように変化するかを定量的に評価し、その関係を示した。  
・前述の結果に基づいた調理に関する映像教材を試作し、その有効性を評価した。
- ◆結果と意義  
・結果の一例⇒調理者の視線は、真正面かそれに近い角度が適切である。  
・指導したいテーマに沿って適切な方向から撮影した映像を選択し、複数の映像を組み合わせることで、児童や生徒が理解し易い教材となる指針を得られた。

## 成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

- ・調理動作について、どのように映像等を提示すれば児童・生徒にとって分かりやすい物になるのか、そのノウハウを定量的に示すことにより、教員のICT教材開発の能力向上に貢献できる。
- ・調理実習に限らず、実技の個人指導は有効な手段ではあるが、実際の教育現場で多くの児童・生徒に対して一人の教師が一斉授業をする際には、物理的に困難を伴う。今後、より増加することが想定されるICTを取り入れた授業に、本研究から得られた客観的なICT教材開発の設計指針を取り入れることで、学習効果の向上が図られると考える。

## このプロジェクトの形成に寄与した制度等

- ・平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト

## プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

- ・家政教育講座 教授 阿曾沼 樹 代表者